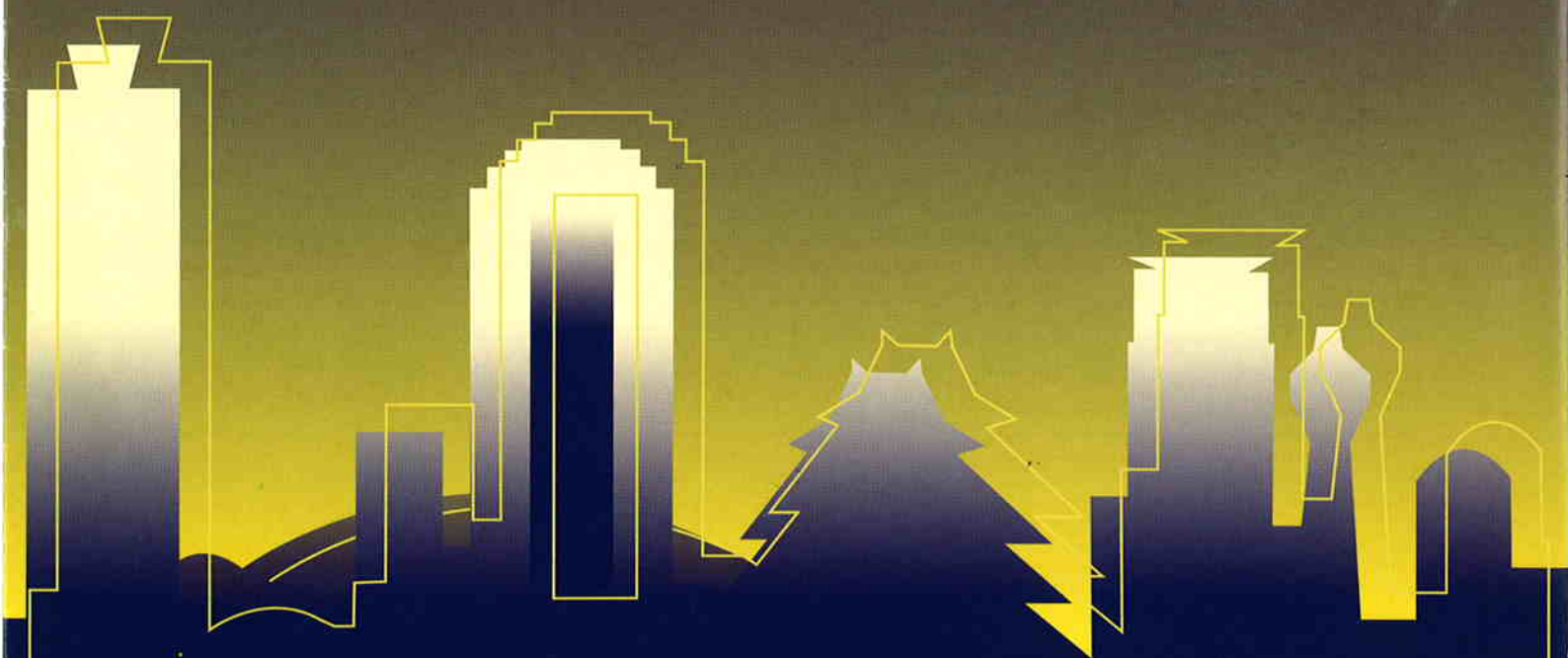


「まちの明かり」を考える

「まちの夜間景観」づくりのすすめ



まち・夜・かわれい！

夜間景観への関心は日毎に高まっています。大阪市では、昭和58年から「ライトアップ大阪」計画として、主要な建築物や橋梁などのライトアップに、本格的に取り組み始めました。そして今では市内のいたるところで、様々な手法を駆使した夜間景観が創り出されています。

この一方で、近年、まちの光がもたらす「光害」への配慮も、強く求められるようになってきています。

大阪市では、魅力的かつ節度ある夜間景観の創出に向け、「まちの明かり」を考える際に配慮すべき内容をまとめました。

このパンフレットの趣旨をご理解いただき、より魅力あるまちづくりを、みなさんと一緒に進めていきたいと考えています。

夜間景観整備の3つの視点

「まちの明かり」を考える際、次の3つの視点を持ちながら、計画を進めていきます。

「装い」の明かり

建物などのライトアップや、ネオンサインなどの夜間照明を活用した夜間景観は、まちに賑わいや活気をもたらし、昼間とは違った雰囲気を出し出すなど、まちの魅力の向上に大きな役割を果たしています。

しかし、この一方で、人の目を引こうとするあまり、過剰な照明やイルミネーションを施している例も見受けられます。

こうした「明かり」がまちの中にあふれると、まちの魅力はかえって低下してしまいます。

また、明かりの効果をより高めていくためには、全てを明るくしてしまうのではなく、なにが主役なのかを十分に見極め、「めりはり」のある夜間景観の創出に努めることが重要です。周辺の環境や施設の性格などを十分に踏まえ、賑わいや、潤いなど、地域の個性や場の雰囲気にふさわしい「装いの明かり」を創出していくことが大切です。

「安心」の明かり

夜間の生活を快適なものとするためには、まちが安心して安全に活動できる場所であることが必要です。過剰な「明かり」がまちの中にあふれてしまうと、かえって不快なものとなりますが、反対に「明かり」が不足すると、安心してまちを楽しむことができなくなってしまいます。

人が安心して歩ける程度の明るさを確保するとともに、自分のいる場所や出入口などの目的とする地点が自然にわかるような、「安心の明かり」を創出していくことが大切です。

「優しさ」の明かり

私たちが豊かな営みを続けていくには、「明かり」は欠かすことはできません。しかし、この一方で、「漏れ光」（照明機器から照射される光のうち、その目的とする照射対象範囲以外に照射される光）により、星空が見えにくくなったり、動植物の生育に影響が及んだりする「光害」の問題が、重要な課題となっています。また、過剰な「明かり」は「光害」だけでなく、エネルギー消費の増大にもつながります。効果的な照明がなされているか、上方への光の漏れはないか、エネルギー効率の良い照明機器を用いているかといったことを、今一度考えながら、環境への「優しさ」に十分配慮した明かりを創出していくことが必要です。

夜間景観整備の進め方

よりよい夜間景観を創り出すまでの流れとしては
以下のような手順をたどることが効果的でスムーズです。

夜間景観整備のきっかけ

- ・街の景観に変化・アクセントを付けたい、新しいまちの顔をつくりたい
- ・安心・快適な夜のまちづくりを進めたい

調査・分析

- ・地域の個性・特性を客観的に見つめ直す
- ・現状の夜間景観の良い点、悪い点を見直す
照明の効果は十分に期待できるか
残して生かす明かりは何か、取り去る明かりは何か

計画・方針

- ・目的・コンセプトの明確化
「装い」「安心」「優しさ」の3つの視点から
- ・調査・分析に基づく検討
地域の個性を伸ばす
現状の長所を生かし、短所を改善する
目的・コンセプトの実現に効果的な照明手法は何か

協力・調和

- ・計画が周辺の景観と調和するか再点検
- ・近隣との協力により、より効果的で広がりのある夜間景観の創出が可能

実施

- ・デザイン、実験・CGによるシミュレーション
- ・機器の製作
- ・施工
- ・効果の確認

維持管理

- ・適正な修理・メンテナンス用による夜間景観の持続・発展

快適で魅力ある夜間景観の誕生

夜間景観整備の考え方

夜間景観の整備にあたって大切なことは、その場所・地域の性質をよく考え、それに相応しい計画を立てることです。

夜間も人々が安心して活動でき、快適で魅力にあふれた大阪らしいまちづくりを進めるため、以下のような考え方で夜間景観の整備を進めていきます。

川沿いの地域では

- ・水と緑・建物などが調和した、安らぎや落ち着きを感じさせる夜間景観を演出します。
- ・水上バスや橋などの視点場から、水辺景観全体としてどのように映るのかといったことにも十分配慮した夜間景観整備が必要です。
- ・川面への映り込みや、河川空間がもつ暗闇との対比なども効果的に活用し、水の都にふさわしい夜間景観を創出します。

海辺では

- ・大阪の海の玄関口、21世紀の大阪を担う新都心にふさわしい雰囲気づくりに向け、水辺の空間的広がりや鏡面性など、臨海部の水辺空間が持つ特性を生かしながら、一定の秩序の中で、センスや先駆性を感じさせる夜間景観を創出していきます。
- ・水際線や景観的なポイントとなる建築物は、効果的な夜間照明を施すとともに、大規模な面的開発では初期の段階から、夜間景観の全体計画を盛り込んでいきます。

住宅を主とする地域では

- ・生活者の視点に立ち、過度な演出は控え、夜間の安全を確保し、生活に安らぎを与えることを重視した夜間景観を整備していきます。
- ・人々が通行・利用する空間の明るさを十分確保するとともに、地域の雰囲気にあった、心地よさを感じることのできる器具、光のあり方を考え、住環境の向上を図ります。

ターミナル街では

- ・まちを訪れる人々を迎え入れる雰囲気づくりを進めます。
 - ・大規模なビル群の圧迫感を少しでも和らげるような、ソフトなライトアップや暖かい光の使用などによる、親しみと統一感のある夜間景観を創ります。
 - ・ランドマークとなるような高層ビル等は、その公共的な存在意義を果たせるよう、建築意匠を生かした照明を積極的に行います。
- また、時間や曜日など、各種情報に基づいて変化する光の演出も効果的です。

オフィス街では

- ・風格や落ち着きを重視し、過度なライトアップやイルミネーションは避け、節度ある夜間景観を創出していきます。
- ・夜も寂しい雰囲気とならないよう、街路灯やショウウィンドウの明かりなども活用しながら適度な明るさを確保し、安心感のある景観形成を心がけます。

商業地では

- ・照明の効果を個々に考えて無原則に演出するのではなく、地域全体として個性が表現できるよう、活気・賑わいと秩序が共存する夜間景観づくりを推進します。
- ・多くの人が集まる場所であることに配慮して、分かりやすさや安心感、清潔感などの演出も心がけます。
- ・カラー照明など、賑わい感のある演出も、過度にならないエッセンスとして用いれば、より効果的です。

歴史の界隈では

- ・歴史的・文化的な雰囲気の醸成に向け、過度の演出や強すぎる光は避け、落ち着きと品格を感じさせる夜間景観の創出に努めます。
- ・歴史的な建築物などの景観資源については、建築的特徴に即した照明を行い、地域のランドマーク、アクセントとして積極的に活用するとともに、その周辺についてもこうした演出がより効果的なものとなるような環境整備を進めていきます。
- ・歴史の界隈にマッチしたデザインの器具を採用するとともに、地域内を散策ルートとして快適に歩ける明るさと適度な賑やかさを演出します。

